

求買録・土蔵新築費用記録（掛札一覧表②）

明治14年12月



1854

求買録

金三拾三圓	太鼓并蒲団
全五拾壹圓	太鼓臺
全九拾五錢	鐘、鈴、摺鐘
全五圓三拾錢	獅子着物、晒黄木綿
全六拾錢	獅子前齒修繕
全六拾九錢	房四組
全五圓	獅子塗
全壹圓九拾八錢	獅子張紙
全七拾錢	頭毛
全一圓三拾八錢	紅提燈
全七圓拾六錢	獅子着物
全四拾錢	染替仕
全二圓九拾三錢	獅子鼻高面塗
全九圓七拾八錢	諸道具
全七圓五拾錢	諸費用
	古太鼓臺
	境内賣渡

土蔵新築費用記録

金六拾壹圓	材木一切
全五圓六拾錢	竹一切
全拾五圓七拾七錢	瓦一切
全八拾六錢	縄代
全七圓九拾五錢	鐵物一切
全三拾圓六拾錢	大工左官共作料
全五圓四拾七錢	壁石灰
全四圓八拾九錢	石代
全壹圓拾六錢	藁代
全貳圓貳拾七錢	諸費用一切
全貳拾圓三拾四錢	上棟式諸費用

盡力方 款待社

明治十四年十二月吉日

現在の丸端の大師堂の付近に、昭和30年代当初ごろまでたしかに白壁の土蔵（倉庫）があり、村内に建てる額の部材などが収納してあった。その土蔵の新築費用の記録であり、「款待社が世話役として頑張りましたよ」との告知でもあろう。

秋祭り関連用具（太鼓、獅子頭、鐘等）を新調、又は修繕した際の所要経費の記録である。太鼓臺（台）の金額からして、これが今に伝わる総櫓造りのだんじりか。先人たちの祭礼に対する畏敬の息吹が伝わってくるようだ。